

ボリビアとパラグアイの folkloreとチャコ戦争 —ヴァナキュラー音楽が語る歴史—

開催趣旨

ラテンアメリカにおけるヴァナキュラー音楽は、20世紀後半にfolkloreと呼ばれる民衆音楽へと展開した。本講演会では、ボリビアとパラグアイにおけるその歴史的展開とそれぞれの独自性について、実際の演奏を交えて考察する。そして両国の間で起こったチャコ戦争（1932-1938）に注目し、戦争を題材としたfolkloreの歌詞の分析を通して、民衆の視点から語られた戦争の実態を明らかにする。



立命館大学
衣笠キャンパス
創思館カンファレンスルーム



日本語、スペイン語（通訳あり）



入場無料



program

14:55 – 15:00 趣旨説明・登壇者紹介（安保）

15:00 – 16:30 ボリビアのfolklore（相田、Ponishi、Sol de las Indias）

16:40 – 18:10 パラグアイのfolklore（ボルドン、小野）

18:10 – 18:30 全体討論、質疑応答

司会：安保寛尚（立命館大学）

主催：ヴァナキュラー文化研究会

共催：立命館大学国際言語文化研究所、国立民族学博物館「非欧米圏ポピュラー音楽の実践に見る新たな文化動態」共同研究会

＊本講演会は科学研究費（基盤研究C 課題番号24K03827）の支援を受けた



相田豊（上智大学）

東京大学大学院博士課程修了。博士（学術）。専門は、文化人類学・ラテンアメリカ地域研究。大学在学時にボリビアのフォルクローレ音楽を知り、その魅力に取り憑かれ、ボリビアに住んで音楽家のもとでフィールドワークを行う。この時のおよそ3年半の経験

をもとに、ボリビアの人にとっての「孤独」とは何か、日本社会にとっての「つながり」とは何かを考えている。著書『愛と孤独のフォルクローレ』（2024年、世界思想社）。



Ponishi

【相田豊、西川哲、羽深愛、朝倉隆文、小崎康宏、早川舞】

2023年に結成されたアマチュアのボリビア音楽演奏楽団。アンデスの高山都市ラパスの音楽にこだわりつつ、ボリビアの民族音楽を多彩な楽器編成で演奏している。メンバーのほとんどは実際に現地ボリビアで音楽修業をし、そのままボリビア音楽を20年以上続けてきた、生粋のボリビア音楽好きばかり。ハイアマチュアだからこそできる新しいボリビア音楽の表現に挑戦している。これまで、東京、福島、兵庫などで公演実績あり。

Sol de las Indias 【安達満里子、山地美生】

ボリビア・ダンスチーム



ビクトル・ボルドン （アスンシオン国立大学）

アスンシオン国立高等音楽院卒業。国内外のコンクールで受賞歴があり、これまでにブラジル、アルゼンチン、ボリビア、ペルー、ウルグアイ、韓国などでもコンサートを開催。ギターソロのCDとし

ては、「パラグアイのギター」と「チェ・ンバラカ・プ」を発表している。演奏家の活動と並行して、パラグアイ音楽の研究者・教育者としても活躍し、「歴史を通してのギター」「音楽の探究者」といったプロジェクト立ち上げ、後進の育成にも力を注いでいる。

小野華那子（アルパ奏者）



青森県弘前市出身。本田宏彦氏、CHUCHO DE MEXICO氏、敏子・根津・SANDOVAL氏に師事。2013年に全日本アルパコンクールで準優勝、国際交流協会賞・千葉日報社賞を受賞し、翌年パラグアイへ留学。現在は東京を拠点に全国各地で演奏活動を行い、弘前大学特別講師も務める。これまでNBFビル、ランチタイムコンサートでの演奏、佐藤竹善や谷村新司との共演があるほか、JR函館新幹線開通による誘致用公式観光PV、劇版音楽、SOMPOジャパンヘルスケアアプリなどにオリジナル楽曲の提供も行うなど、活動の幅を広げている。



アグスティン・バリ奥斯とパラグアイの音楽

11月23日 茨木六鳴館

詳しくはQRコードから

SCAN

